

昨夏、東京銀座で初めて開催し、大いに好評を博しました【ヒロシマの高校生が描いた「原爆の絵」展 in 銀座】(主催：井伏鱒二先生生誕 120 周年記念「黒い雨」プロジェクト実行委員会)がコロナ禍の中ですが、今夏も開催する運びとなりました。

今年は戦後 75 年。「被爆地には今後 75 年は草木も生えぬ」とも云われただけに、被爆地や被爆者にとって今年は 1 つの節目の年と受け止めていると伺っています。

事実、日本は今年、オリンピックイヤーであると同時に、被爆地を中心に大小様々な式典や集会、フォーラムなどが相次いで行われる予定だったようで、原爆の記憶と記録を東京五輪と共に世界に向けて広く発信できるはずでした。もちろん原爆の絵や写真の展示会も、その一翼を担うことは間違いありません。それが、ご承知の通り、コロナ禍の影響で誠に残念ながら中止または延期に迫いやられました。

しかし、それで良いのかという想いが拭い去れない主催者(井伏鱒二先生生誕 120 周年記念「黒い雨」プロジェクト実行委員会)では、3密に十分に配慮しつつ、基町高生の「原爆の絵」に込めた想い・願いを受けて前を向く、すなわち開催する決断を致しました。この決断に至ったのには、実はいま 1 つ理由があります。今、コロナ禍で日本の文化・芸術分野も、これまでにない危機に瀕しており、昨夏お世話になった開催会場の「銀座ギャラリー・アートグラフ」も例外ではなく、その一助になればとの想いもあるのです。

1 日も早いコロナ禍の収束が待たれる中、以下のように、昨夏以上に様々な想い・願いを、そして祈りを込めて行う【第 2 回ヒロシマの高校生が描いた「原爆の絵」展 in 銀座】です。今夏も、ネットでは感じ得ないライブ空間のギャラリーで、高校生の真心と熱意が込められた優れた作品の数々に触れ、何かしらの学び・気づきを、たくさんの元気・勇気を得ていただければ幸いです。

////////////////////////////////////

<催事名称>

第 2 回ヒロシマの高校生が描いた「原爆の絵」展 in 銀座

<催事日時>

2020 (令和 2) 年 8 月 7 日 (金) ~ 13 日 (木)

11 : 00 ~ 18 : 00 (初日は 18 : 30、最終日は 17 : 00)

<催事場所>

ギャラリー・アートグラフ

(東京都中央区銀座 2 - 9 - 14 銀座ビル 1 F)

<https://www.shashinkosha.co.jp/gallery.php>

…店主は尾道出身の柳澤由利さん

<展示点数>

約 20 点（但し、原画ではなく基町高校製作「特製パネル」）

<入場料>

500 円（税込：中学生以上、小学生以下は無料）

////////////////////////////////////

「語り継がねばならないが、語りたくない…」という状況が長らく続きました。が「被爆者も高齢化する中で何とかしなければ…」と勇気を奮い立たせて立ち上がった被爆者と高校生。

無理なく二人三脚で一步前へ…を実現させた、この挑戦は、描かれた絵そのものの価値もさることながら、その一連の行動にも極めて好感が持てる、実に優れた取り組みです。

広島市内各所で「原爆の絵」展覧会や「原爆の絵」に係るフォーラム等が開かれ、NHK 広島放送局では短編ドラマ化もされるほどですが、残念ながら東京では、まだご存じでない方が多いのが現状です。

およそ戦争や原爆に係る意識や行動等にあって、被爆地：広島・長崎と首都：東京では同じ日本ですが、大いに温度差を感じます。

だからこそ、戦後 75 年の節目を迎えた今夏、「本校美術部（創造表現コース）」「原爆の絵」の存在を、広く首都圏の皆様にも、昨夏に続いて見知っていただくとともに、戦争と平和について、また次世代への文化や歴史の継承の在り方（手法）を、イデオロギーに捉われず純粋に文化・芸術に親しむ感覚で、各々が様々に感じ、深く考察していただく契機となるよう願って止みません。

そして、若い世代の活動から勇気と希望をもらってお帰りいただければ幸いです。